

ANALISIS STRUKTUR DAN PENGGUNAAN KALIMAT PASIF LANGSUNG
BAHASA JEPANG DALAM NOVEL *NIJI NO SHOUNEN TACHI*

SKRIPSI

Diajukan sebagai syarat untuk memperoleh gelar Sarjana Pendidikan Bahasa Jepang



Oleh

Gysa Aurelita Fadilah

1600780

PENDIDIKAN BAHASA JEPANG
FAKULTAS PENDIDIKAN BAHASA DAN SAstra
UNIVERSITAS PENDIDIKAN INDONESIA

2022

LEMBAR HAK CIPTA

**ANALISIS STRUKTUR DAN PENGGUNAAN KALIMAT PASIF
LANGSUNG BAHASA JEPANG DALAM NOVEL *NIJI NO SHOUNEN*
*TACHI***

Oleh :

Gysa Aurelita Fadilah

1600780

Sebuah skripsi yang diajukan untuk memenuhi salah satu syarat memperoleh
gelar Sarjana Pendidikan

Departemen Pendidikan Bahasa Jepang, Fakultas Pendidikan Bahasa dan Sastra

© Gysa Aurelita Fadilah

Universitas Pendidikan Indonesia

Agustus 2022

Hak Cipta dilindungi undang-undang.

Skripsi ini tidak boleh diperbanyak seluruhnya atau sebagian.

Dengan dicetak ulang, atau cara lainnya tanpa izin dari penulis.

LEMBAR PENGESAHAN

GYSA AURELITA FADILAH

ANALISIS STRUKTUR DAN PENGGUNAAN KALIMAT PASIF
LANGSUNG BAHASA JEPANG DALAM NOVEL *NIJI NO SHOUNEN TACHI*

Disetujui dan disahkan oleh pembimbing:

Pembimbing I



Dra. Renariah, M.Hum.

NIP. 195804061985032001

Pembimbing II



Dewi Kusriani, S.Pd., M.Pd.

NIP 197710202005012004

Mengetahui,

Ketua Departemen Pendidikan Bahasa Jepang



Dr. Susi Widiyanti, M.Pd., M.A.

NIP 197312032003122001

**ANALISIS STRUKTUR DAN PENGGUNAAN KALIMAT PASIF LANGSUNG
BAHASA JEPANG DALAM NOVEL *NIJI NO SHOUNEN TACHI***

ABSTRAK

Gysa Aurelita Fadilah

1600780

Penelitian ini bertujuan untuk menganalisis mengenai struktur kalimat pasif langsung, serta fungsi sintaksis, kategori gramatikal dan peran semantis yang dikategorikan ke dalam tipe kalimat pasif langsung. Selain itu, untuk memahami penggunaan kalimat pasif langsung yang terdapat di dalam novel *Niji no Shounen Tachi*, sebagai sumber datanya. Metode penelitian yang digunakan adalah metode kualitatif deskriptif, dengan teknik lanjutannya yaitu teknik dokumentasi dan teknik catat dalam menganalisis data kalimat. Didapatkan 2 kategori dari hasil penelitian, yaitu ① terdapat 5 struktur kalimat pasif langsung yang ada, diantaranya, struktur *～は～に～られる* berjumlah 41 kalimat, struktur *～は～によって～られる* berjumlah 4 kalimat, struktur *～は～られる* berjumlah 9 kalimat, struktur *～が～に～を～られる* hanya 1 kalimat dan struktur *～は～と～られる* berjumlah 3 kalimat. ② Kalimat pasif langsung pada novel digunakan pada situasi dimana terjadi kejadian yang spesial, unik atau hanya terjadi pada saat itu dan tidak terulang kembali dalam waktu dekat. Penelitian lanjutan yang dapat dilakukan berdasarkan hasil penelitian ini yaitu dengan menggunakan media novel dalam pembelajaran untuk meningkatkan pemahaman pembelajar mengenai kalimat pasif langsung.

Keyword: kalimat pasif langsung, novel, *Niji no Shounen Tachi*, *ukemi*

**STRUCTURE ANALYSIS AND USE OF JAPANESE DIRECT PASSIVE
SENTENCE IN *NIJI NO SHOUNEN TACHI* NOVEL**

ABSTRACT

Gysa Aurelita Fadilah
1600780

This research aim is to analyze the structure of direct passive sentences and syntax function, grammatical categories, and a semantic role which is roundup called “type” in passive sentences as well as to understand direct passive sentences usage in *Niji no Shounen Tachi* novel, which is the data source in this research. The research method is the qualitative description and further methods are documentation techniques and note-taking techniques in analyzing data sentences. There are two points found in the research which is, ① 5 structure direct passive sentence is used in the novel, there are ～は～に～られる structure which have 41 sentences in the data, ～は～によって～られる structure with 4 sentences, ～は～られる structure with 9 sentences, ～が～に～を～られる structure with 1 sentence and ～は～と～られる with 3 sentences, ② Direct passive sentences are used when there is a special circumstance or situation that happens at that time and will not be repeated shortly. Further research that can be carried out based on this result is to use media novels in a study for increasing understanding of direct passive sentences.

Keywords : direct passive sentence, novel, *Niji no Shounen Tachi*, *ukemi*

「虹の少年たち」小説で直接受け身の構造分析と使用

要旨

ギサ・アウレリタ・ファディラー

1600780

本研究は直接受動文の構造と構文機能、文法的カテゴリーおよび意味的役割を特定し、直接受動文の使用を明らかにするために行われた。扱うデータは「虹の少年たち」の小説である。本研究は質的研究でありデータを分析する。その結果次の二点が分かった。一つ目、「～は～に～られる」構造で使っている文は41であり、「～は～によって～られる」構文で使っているのは4文、「～は～られる」構文で使っていたのは9文、「～が～に～を～られる」構造で使っていたのは1文、と「～は～と～られる」で使っているのは3文である。二つ目、データには直接受動文が特別や稀な状況や近いうちに繰り返さないように状況で使用されることが分かった。本研究の結果に基づいて実施できる課題研究として、直接受動文を新しいメディアに使用して、学習者の受動文の理解を高めることである。

キーワード : 直接受動文、小説、虹の少年たち、受け身

要旨

ギサ・アウレリタ・ファディラー

1600780

1. はじめに

受身（受動文）という表現は何かの影響力の介入で、その状況になった事の意味である（がっちゃん、<https://www.youtube.com/watch?v=SuuOpuVMfAU&t=10s>）。構造による受け身は二つ種類があり、直接受け身と間接受け身で呼ばれている。ステディ（2015）は構文機能カテゴリ、文法カテゴリと意味的作用による、11タイプの受身を別れている。タイプ I から VI まで「～は～に～られる」構造を使っている。文は主語、行為者と述語で建てられた。そして、意味的作用はタイプにより様々だった。タイプ VII は「～は～によって～られる」使っている。構文機能は主語、行為者、述語で作られた。生き物の介入からそのものの存在が出来ている、すなわちいない物からいる物になったというわけである。だから「作る、建てる、発明する、用意する」など動詞を使う、このタイプの特徴である。意味作用の各機能カテゴリは主語が目標変化で、行為者が行為者で、述語がわざの行為である。タイプ VIII は「～は～られる」構造を使っている。構文機能は主語と述語で建てられて、意味作用の各機能カテゴリは主語は目標で、述語はわざの行為である。タイプ IX は「～は～に～を～られる」を使って、文は主語、行為者、客語、述語で建てられて、意味作用能動文によって違っている。タイプ X は「～は～から～に～られる」を使って、主語、行為者、副詞、述語で建てられて、意味作用は主語は目標で、行為者はソースで、副詞はゴール（目的）で、述語はわざの行為である。タイプ XI は「～は～に～と～られる」を使って、主語、行為者、副詞、述語で建てられて、意味作用は主語は目標で、行為者は行為者で、副詞は内容で、述語はわざの行為である。下の例文を見てである。

- 1) 子供は犬にかまれた。
(タイプ I、こいずみのステディで、2015、p.26)
- 2) ドアが一太郎に壊された。
(タイプ II)
- 3) 自慢の髪型が友人に褒められた。
(タイプ III ステディ、2015、p.37)
- 4) この本は天皇陛下にも読まれている。
(タイプ IV、たかみのステディで、2015、p.39)

- 5) 彼の絵は多くの人に愛されている。
(タイプ V、こいずみのステディで、2015、 p.43)
- 6) 雪の色は闇に呑まれていた。
(タイプ VI、『雪国』のステディで、2015、 p.48)
- 7) 金閣寺は義満によって建てられた。
(タイプ VII、むらきのステディで、2015、 p.54)
- 8) 部屋の温度が下げられた。
(タイプ VIII、こいずみのステディで、2015、 p.60)
- 9) 由紀子は一郎に手紙を渡された。
(タイプ IX、ステディで、2015、 p.67)
- 10) プレゼントがお母さんから子供たちにあげられた。
(タイプ X、こいずみのステディで、2015、 p.70)
- 11) 彼女は皆に幸運の女神と呼ばれる。
(タイプ XI、にわのステディで、2015、 p.74)

小川と安藤（ステディ、2009、p.3）によると、受け身の授業は基本レベルで一回習って、次のレベルでは続けられない。これは学習者に混乱を引き起こす。なぜなら、それは迅速に理解する必要があるが、深くそして徐々に理解する必要がないから。Novikasari (2016)と Arfianti & Hasibuan (2018) が行った調査に基づいて、受身の動詞の変化が間違っていて、受け身文を作ったらインドネシアの受け身規則を使って、インドネシア語では助詞がないから学習者は助詞の使用を乱れて、受け身文を習った学習者の様々な問題が分かった。

受身の授業時間が短いから教科書でしか理解できず、小説や漫画やドラマなど違った受け身文を見つかったら学習者は混乱している。教科書では受け身文は短いと構文機能は完全だけど小説や漫画やドラマなどは長いと構文機能は不完全である。下の例文を見てください。

- 12) 子供が犬にかまれた。
(受け身と使役、2011、 p.40)
- 13) 新入生の歓迎ムードに沸く他の小学校と違い、ムハマディヤ小学園校は不安に包まれていた。
(虹の少年たち、2013、 p.4)

上の例文から見ると、12)文は13)文より長かったと説明も多い。意味もそんな早いで捕まっていない。それとも主語や客語や述語のフィーラが違って、この理由で間違える可能性が起こることが出来る。こんなことからこの研究が行われている。

「虹の少年たち」は 2013 年で加藤ひろあき&福武慎太郎で翻訳された。この本はペリトンで住んでいる子供たちのことを話した。家族、教育、社会的なテーマを話している。

2. 問題提起

前の背景からに基づいて、次のように問題を述べる。

- 1) 「虹の少年たち」小説ではどんな構造とタイプの直接受け身があるか。
- 2) 「虹の少年たち」小説では直接受け身はどんな事情で直接受け身を使用されるか。

3. 研究の目的

本研究の目的は「虹の少年たち」小説でどんな構造やどんな状況で直接受け身が使用されるのを調べる。

4. 先行研究

本研究に参考とした先行研究がいくつかある、一つはメディアを使っている受け身を分析する研究は Putri D. & Putri M. (2020) では受け身は直接受け身、間接受け身、と持ち主の受け身、受身は三つで別れている。二つは受け身の構造を分析する先行研究は彩子(2018)、Puspa (2014)、Rosliana (2014)、研究からは受身文は、動詞の「～られる」と「～れる」への変化から切り離すことができず、文中の動詞の変化は、文構成の各要素の意味と機能の変化を示す。意味の面では、受け身の意味を与えることに加えて「～られる」の使用は、話者の位置または配置も変更するため、この動詞の変更は「～られる」の意味の変化を伴う単語の使用において非常に重要である。したがって、受動態の構造は、中立であることを支持して構成することが出来る。

5. 研究方法

本研究は質的研究でありデータを分析する。データを集めるために文書化技術とメモを取る技術で使う。「虹の少年たち」小説は本研究のデータソースである。この研究で実施された段階は次のとおりです。最初は動詞が（～られる）をつけて文を集める。次は受け身と受け身ではない文を別れる。また、直接受け身の文を解明する。それでタイプの特徴で文を指摘する。最後は文がまた分析しているともっと完璧な説明をする。

6. 分析の結果

データソースから直接受け身文は 58 文が得られた。下で受け身文の構造とタイプや使用の分析を説明する。

(1) 直接受け身の構造とタイプの分析

分析からは五つの構造で六つのタイプが見つかった。下のデータ例文を見てください。

- 14) 「しかし、彼らの傲慢な心が目を閉ざし、耳を閉ざし、挙げ句、彼らは波に 飲まれ、絶滅してしまった. . .」
(虹の少年た、2013、 p.27)

例文から見ると、中心文は最後のパートである。「彼らは波に飲まれる」これは中心文。文法より敵に構造は「～は～に～られる」を使っているそして、文から見ると直接受け身に入れるのは構造が能動文に作り返すことが出来る、それは「波は彼らを飲んでいる」からである。そして「-られる」の意味によると「出来る」と「相手のことを高める」ではないから受け身になる。構文機能カテゴリからは「彼ら」は有情で「波」は非情で「飲まれる」は他動詞である。ここから見ると、主語、行為者、と述語に建てられる。意味役割的には文から「彼ら」が「波」の目標で「飲まれる」とは「波」のわざの行為であり、「波」が行為者である。この文から「波」が人ではないから「波」が人みたいな感じで意味にとって比喻になる。分析からはこの文がタイプ I になる。

- 15) 親にロタンのムチで叩かれる恐怖も、このときばかりはゆるんだ。
(虹の少年たち、2013、 p.138)

この文は被行為者視点から見られる。主語が文になかったとはいえ前の文では主語が書かれている、これは「子供の文」と言う。理論からは主語がいなくてもまだ意味が伝えるから直接受け身と入れられる。そこからは構造により「～に～られる」を使っている。構文機能は「親」が行為者として有情で「叩かれる」が述語で他動詞である。意味役割に「親」が行為者と「叩かれる」は技の行動である。文から「ロタンのムチで」主語と述語の間にある、状況を分かるために付けられた。意味的にこの文は中性であり、タイプ I に入った。

- 16) サワン人の美しい言語は、このまま時代に飲み込まれて消えてしまうかもしれないのだ。
(虹の少年たち、2013、 p.135)

この文は「～は～に～られる」構造を使っている。構文機能は「サワン人の美しい言語」が主語として有情で「時代」が行為者として非情で「飲み込まれる」は述語で他動詞である。客機能の役割は主語は目標で行為者は道具で述語はわざの行為であるが結果の状態になる。これは、文に基づくと、サワン人の言語は時間が続くと消滅する可能性があり、将来サワン人の言語が保存されない場合に発生する状況を示しているためである。すなわちこの状況は自然に行われる可能性が高い。だからこそこの文はタイプ VI になる。

- 17) 彼らの家は森に囲まれており、真ん中には支流が流れていて、居住区は海岸まで延びていることが多かった。

(虹の少年たち、2013、p.144)

文から見ると「彼らの家は森に囲まれており」は直接受け身文である。そこからは「～は～に～られる」構造を使っている。文には主語、行為者と述語が建てられた。「彼らの家」と「森」は非情、名詞である。「囲まれて」は他動詞である。各機能意味役割は「彼らの家」はトピックで目標である。「森」はトピックの場所そして「囲まれて」は「森」のわざの行為。この意味は最初はその「この家は森の中で家が作られた」、これが人間の動作結果がその状態になる。森に囲まれたのは人間が森の中に家を作った。だから「森」は役割的に場所になり。分析からはこの文がタイプ VI に入っている。

- 18) 本物の才能に出会う確率は何百万分の一というところだろう。もし仮に、実は才能があるにもかかわらずスカウトが近づいてこなかったとしたら、その人の才能が発見されるかどうかは運命に左右されることになる。というわけで、教訓その四「神秘的な巡り合わせこそが、才能を発掘するスカウトである！」このことは少なくとも、『フォレストガンプ』によっても証明されている。

(虹の少年たち、2013、p.105)

文から見ると、最後のパートは直接受け身である。なぜならこの文では中心文が「このことは少なくとも、『フランスガンプ』によって証明される」である。その「このこと」は「神秘的な巡り合わせこそが、才能を発掘するスカウトである！」の意味を指示している。文からは「～は～によって～られる」が見られます。すなわちこの文はタイプ VII に入っている。その「神秘的な巡り合わせこそが、才能を発掘するスカウトである！」がフランスガンプの経験から証明されていたから、これはいなかったことということになる。この文は主語「このこと」で、行為者「フランスガンプ」と述語「証明される」が建てられている。主語は非情で行為者は有情で述語は他動詞である。意味役割の各機能カテゴリは主語は目標変化で、行為者は行為者で、述語はわざの行為である。

- 19) 各教室には初期治療に必要な医療用具が完備されており、どこかが痛いという生徒がいればすぐに専門医の治療を受けることができたし、望めば救急車を呼ぶこともできた。

(虹の少年たち、2013、p.52)

この文は前の文と同じタイプ VII である。直接受け身文はこの「医療用具が完備されており」である。この文では行為者がなかったかけれども意味がまだ伝えられるならばこの文がまだ直接受け身の一つである。そして、「完備される」はいなかったものからいる物を用意する行動だからこのタイプに入っている。すると、その医療具

完備するのは人間だからそれこそがこの文はタイプ VII になり。主語が「医療具」で述語が「完備される」である。主語が名詞と非情で述語が他動詞である。意味役割の各機能カテゴリは主語は目標変化で、述語はわざの行為である。主語の役割は目標変化はなかったからある物になったからこそものが「変化」をしていたことである。

- 20) 自己紹介が行われ、アクションの番になった。
(虹の少年たち、2013、p.30)

この文はタイプ VIII に入っている。「～は～られる」構造を使っている。「自己紹介」は主語で非情と名詞、「行われる」は述語で他動詞である。意味的役割には主語が目標で述語はわざの行為である。このタイプには主語がもっと状況を知るために説明する部分があった。それが「アクションの番になった」は説明部分である。タイプ VIII の特徴はこの説明の部分がいつも付けられている。この説明の部分には「タイム、理由、と場所」を示すことで使っている。だからこの文では「アクションの番になった」それがこの自己紹介ではアクションがクラスの前で名前と家の居場所を話している、これが「タイム」の説明部分である。

- 21) しかし、それはモンゴルの侵攻から王朝を守るために建造された中国式の大きな壁とは違って、このブリトゥンの社会的な地位と支配の象徴として何キロメートルにもわたってそびえ立っていた。
(虹の少年たち、2013、p.36-37)

この文と前の文は同じタイプ VIII に入っている。「～は～られる」構造を使っている。「それは」は主語で非情と名詞、「建造される」は述語で他動詞である。意味的役割には主語が目標で述語はわざの行為である。主語の「それは」は前の文で「壁」を示す。前と違って、説明部分は「タイム」ではなくて「理由」である。なぜなら、壁の建てるの目標が比べられた。文では一つの大きな壁を作るのはモンゴルの侵攻から王朝を守るために作られたんだが、二つの壁はお金持ち人と普通の国民を別れていた目標で壁を建てられる。

- 22) 通学途中にリントンがワニに行く手を阻まれるのはこれが最初というわけではなかった。
(虹の少年たち、2013、p.79)

この文は「～は～に～を～られる」の構造なのでタイプ XI に含まれている。この文では主語、行為者、客語と述語は「リントン」、「ワニ」、「行く手」、「阻まれる」である。主語と行為者は有情

で客語は非情で、述語は二重他動詞である。文章では主語が行為者に行く手を阻まれているからゴール（ターゲット）役割を果たした。行為者の意味役割は行為者で客語は目標で述語はわざの行為である。この文が直接受け身に入れるのは構造からみるとこの文が能動文に繰り返ることが出来る。「通学途中にワニが行く手にリンタンを阻んでいる、これが最初ではなかった」と能動文に繰り返すならこの形になる。

- 23) グドン学園は、センター・オブ・エクセレンス、すなわち、すべてにおいて「知の殿堂」と呼ばれていた。
(虹の少年たち、2013、p.51)

構造からみると「～は～と～られる」で直接受け身がいなかった。でも「～は～に～と～られる」がある。けれども理論的にこのタイプが行為者「に」を付けていなくてもまだ直接受け身に入れる。行為者がなかったとはいえ聞いている人は「誰から」もうしているから行為者が付けなくても出来る。この文は主語、副詞、と述語建てられた。主語は「グドン学園」、副詞は「知の殿堂」、と述語は「呼ばれている」である。主語は有情で副詞は文節で使って、述語は他動詞である。各意味役割は主語は主語は目標で、副詞は内容で述語はわざの行為である。分析から見るとこの文はタイプ XI に入っている。

分析からは五つ構造が見つかった。それは「～は～に～られる」というタイプ I とタイプ VI、「～は～によって～られる」というタイプ VII、「～は～られる」というタイプ VIII、「～は～に～を～られる」というタイプ IX そして最後は「～は～に～を～られる」というタイプ XI である。それぞれはタイプ I は 16 文でタイプ VI は 24 文、タイプ VII は 4 文、タイプ VIII は 10 文、タイプ XI は 1 文とタイプ XI は 3 文である。含めると 58 文である。

(2) 直接受け身の使用

「虹の少年たち」小説では直接受け身は特別や稀な状況や近いうちに繰り返さないように状況で使用される。下の例文を見てください。

- 24) 新入生の歓迎ムードに沸く他の小学校と違い、ムハマディヤ小学園校は不安に包まれていた。

(虹の少年たち、2013、p.15)

- 25) 今晚、全英バドミントン大会の決勝がデンマークのスヴェンド・プリとインドネシアのイイ・スミラットの対戦で行われるということ事態は急を要していた。

(虹の少年たち、2013、p.126)

文から見ると、その状況は稀な状態と言える。24)ではムハマディヤ小
学園校は賑やかではない、違い小学校と比べるとムハマディヤ小学校は
変であり。ムハマディヤ小学校が不安に包まれている、その状況は稀で
ある。だからこの普通ではない状況で直接受け身に書かれている。25)
文でも同じ状態である。イー・スマラットとスヴェンド・プリのバドミ
ントン対戦がいつものことではない。そして、近いうちに繰り返さない
状況と言える。だから直接受け身に書かれている。

7. まとめと今後

以上、本研究で二つ事が分かった。一つは小説で五つ直接受け身の構造
が見つかった。それは、「～は～に～られる」は 41 文であり、「～は～
によって～られる」は 4 文であり、「～は～られる」は 9 文であり、「～
は～に～を～られる」1 文であり、「～は～に～と～られる」3 文がある。
二つは小説で直接受け身は特別や稀な状況や近いうちに繰り返さないよ
うに状況で使用され。本研究の結果に基づいて実施できる課題研究とし
て、直接受動文を新しいメディアに使用して、学習者の受動文の理解を
高めることである。

8. 参考文献

本・論文から

彩子 志波 (2018) 「受身と可能の交渉」名古屋大学人文学研究論集
第一号：305-323

ヒラタ アンドレア (2008) 「虹の少年たち」加藤ひろあき&福武慎太
郎 (2013) スンマーク出版：東京

健一 高見 (2011) 「受身と使役、その意味規則を探る」開拓者：東
京

Arfianty R. & Hasibuan A. (2018). Pembentukan Kalimat Pasif Bahasa Jepang:
Studi Kasus Pembelajaran Kalimat Pasif Bahasa Jepang pada Pembelajar
Indonesia. *Jurnal Lingua Applicata*, 2 (2), hlm. 77-90

Novikasari, I. (2016). *Kesalahan Penggunaan Kalimat Pasif Bahasa Jepang Pada
Mahasiswa Satra Jepang Universitas Diponegoro (ディポネゴロ大学生の日
本語受け身文の誤用分析)*. (Skripsi). Universitas Diponegoro, Semarang

Puspa, I.A.W. (2014). *Perubahan Struktur Aktif ke Pasif Kalimat Bahasa Jepang*.
(Thesis). Universitas Diponegoro, Semarang

Putri D. & Putri M.A. (2020). Analisa Kalimat Pasif Bahasa Jepang dalam Novel
Kasei no Kioku Karya Raymond Jones. *Omiyage Jurnal Bahasa dan
Pembelajaran Bahasa Jepang*, 3 (3), hlm. 33-43

Roslina L. (2014). Verba dalam Kalimat Pasif Bahasa Jepang. *Jurnal Izumi*, 3 (1), hlm. 50-53

Sutedi, D. (2015). *Kalimat Pasif Bahasa Jepang (Kajian Sintaksis, Semantis, Pragmatis, Dan Konstransif Serta Implikasinya Dalam Pengajaran) 日本語の受動文 (nihongo no jyudoubun)* . Humaniora : Bandung

インターネットから

ガッちゃん あなたがちょっと勘違いしている、(受動文・受け身)の本物の概念 「オンライン」アクセス：
<https://www.youtube.com/watch?v=SuuOpuVMfAU&t=10s> (07/06/2022
にアクセス)

DAFTAR ISI

LEMBAR HAK CIPTA	ii
LEMBAR PENGESAHAN	iii
LEMBAR PERNYATAAN	Error! Bookmark not defined.
KATA PENGANTAR	Error! Bookmark not defined.
UCAPAN TERIMA KASIH	Error! Bookmark not defined.
ABSTRAK	4
要旨	7
DAFTAR ISI	16
BAB I	Error! Bookmark not defined.
PENDAHULUAN	Error! Bookmark not defined.
1.1 Latar Belakang Penelitian.....	Error! Bookmark not defined.
1.2 Rumusan Masalah Penelitian	Error! Bookmark not defined.
1.3 Batasan Masalah Penelitian	Error! Bookmark not defined.
1.4 Tujuan Penelitian	Error! Bookmark not defined.
1.5 Manfaat Penelitian	Error! Bookmark not defined.
1.6 Struktur Organisasi Skripsi	Error! Bookmark not defined.
BAB II	Error! Bookmark not defined.
KAJIAN PUSTAKA	Error! Bookmark not defined.
2. 1 Kalimat Pasif Bahasa Jepang.....	Error! Bookmark not defined.
2.1 1 Pemahaman Kalimat Pasif Bahasa Jepang	Error! Bookmark not defined.
2.1 2 Ciri-Ciri Kalimat Pasif Bahasa Jepang	Error! Bookmark not defined.
2.1 3 Pembentukan Kalimat Pasif Bahasa Jepang	Error! Bookmark not defined.
2.1 4 Jenis Kalimat Pasif Bahasa Jepang.....	Error! Bookmark not defined.
2.1 5 Kalimat Pasif Langsung Bahasa Jepang	Error! Bookmark not defined.
2. 2 Novel Niji No Shounen Tachi	Error! Bookmark not defined.
2. 3 Penelitian Terdahulu.....	Error! Bookmark not defined.
2.3.1 Penelitian Struktur Kalimat Pasif Bahasa Jepang	Error! Bookmark not defined.
2.3.2 Penelitian Berdasarkan Analisis Kesalahan Penggunaan Kalimat Pasif Bahasa Jepang	Error! Bookmark not defined.
2.3.3 Penelitian Kalimat Pasif Bahasa Jepang Melalui Media Karya	Error! Bookmark not defined.
not defined.	
BAB III	Error! Bookmark not defined.

METODE PENELITIAN	Error! Bookmark not defined.
3.1 Desain Penelitian.....	Error! Bookmark not defined.
3.2 Pengumpulan Data	Error! Bookmark not defined.
3.3 Analisis Data	Error! Bookmark not defined.
BAB IV.....	Error! Bookmark not defined.
TEMUAN DAN PEMBAHASAN	Error! Bookmark not defined.
4.1 Temuan Data	Error! Bookmark not defined.
4.2 Hasil Analisis Data.....	Error! Bookmark not defined.
4.2.1 Analisis Struktur Dan Tipe Kalimat Pasif Langsung	Error! Bookmark not defined.
4.2.2 Analisis Penggunaan Kalimat Pasif Langsung ...	Error! Bookmark not defined.
BAB V	Error! Bookmark not defined.
SIMPULAN, IMPLIKASI DAN REKOMENDASI	Error! Bookmark not defined.
5. 1. Simpulan	Error! Bookmark not defined.
5. 2. Implikasi.....	Error! Bookmark not defined.
5. 3. Rekomendasi	Error! Bookmark not defined.
DAFTAR PUSTAKA	19
LAMPIRAN	Error! Bookmark not defined.

DAFTAR PUSTAKA

Buku/Jurnal

- Anggraini, J. (2020) *Analisis Kesalahan Penggunaan Kalimat Pasif Bahasa Jepang Pada Pembelajar Bahasa Jepang*. (Thesis). Universitas Pendidikan Indonesia, Bandung
- Arfianty R. & Hasibuan A. (2018). Pembentukan Kalimat Pasif Bahasa Jepang: Studi Kasus Pembelajaran Kalimat Pasif Bahasa Jepang pada Pembelajaran Indonesia. *Jurnal Lingua Applicata*, 2 (2), hlm. 77-90
- Ayako, S. (2018). Ukemi to Kanou no Koushou. *Nagoya Daigaku Jinbungaku Kenkyuu Ronshuu*, no.2, hlm. 305-323
- Chenning, W. (2017). An Analysis of the Errors in Passive Sentence of Chinese Native Speakers Studying Japanese: Data from the Essay Corpus. *Kumamoto Daigaku Shakai Bungaku Kenkyuu*, hlm. 105-121
- Hardani, dkk. (2020). *Metode Penelitian Kualitatif & Kuantitatif*. CV Pustaka Ilmu: Yogyakarta
- Hirata, A. (2008). *Niji no Shounen Tachi*. Hiroaki, K. & Shintaro, F. (2013). Sunmark Publishing:Tokyo
- Ichikawa, Y. (2005). *Shokyuu Nihongo Bunpou to Oshiekata no Pointo*. Tokyo : 3A Corporation
- Iriantini, S. & Setiawan V. F. (2020). Kesalahan penganalisaan kalimat pasif dari bahasa Jepang ke dalam bahasa Indonesia. *Sirok Bastra* 8 (2), hlm. 123-138
- Ken'ichi, T.(2011). *Ukemi to shieki, sono imi kisoku wo saguru*. Kaitakusha : Tokyo
- Makhlufi, A. (2019). *Analisis Kesalahan Penggunaan Kalimat Pasif Bahasa Jepang Pada Pemegang Di P.T. Minori*. (Skripsi). STBA JIA, Bekasi

- Novikasari, I. (2016). *Kesalahan Penggunaan Kalimat Pasif Bahasa Jepang Pada Mahasiswa Satra Jepang Universitas Diponegoro (ディポネゴロ大学生の日本語受け身文の誤用分析)*. (Skripsi). Universitas Diponegoro, Semarang
- Nobuhiro, K. (2016). The Syntactic Structure Of Japanese Passive Revisited (1). *Bungei gengo kenkyuu* 69. Hlm. 59-82
- Nugrahani, F. (2014). *Metode Penelitian Kualitatif Dalam Penelitian Pendidikan Bahasa*. Cakra Books : Solo
- Oktaviani, N. (2012). Kontrastivitas Kalimat Pasif Bahasa Indonesia dengan Bahasa Jepang. *Wisuda Agustus 2012 Edisi Perdana Ejurnal Mahasiswa Universitas Padjajaran Fakultas Ilmu Budaya, 1* (1), 1-9.
- Puspa, I.A.W. (2014). *Perubahan Struktur Aktif ke Pasif Kalimat Bahasa Jepang*. (Thesis). Universitas Diponegoro, Semarang
- Putri D. & Putri M.A. (2020). Analisa Kalimat Pasif Bahasa Jepang dalam Novel *Kasei no Kioku* Karya Raymond Jones. *Omiyage Jurnal Bahasa dan Pembelajaran Bahasa Jepang, 3* (3), hlm. 33-43
- Putri, L.N. & Zalman, H. (2019). Analisis Kesalahan Penggunaan Kalimat Pasif (Ukemibun) Dalam Tes Bunpou Mahasiswa Tahun Masuk 2017 Program Studi Pendidikan Bahasa Jepang Universitas Negeri Padang. *Jurnal Omiyage 2* (2), hlm. 6-14
- Renariah (2002). Bahasa Jepang dan Karakteristiknya. *Jurnal Sastra Jepang Fakultas Sastra Universitas Kristen Maranatha, 1* (2), hlm. 1-16
- Roslina L. (2014). Verba dalam Kalimat Pasif Bahasa Jepang. *Jurnal Izumi, 3* (1), hlm. 50-53
- Rozani, D. F. (2014). Keadversatifan kalimat pasif dalam novel *kamisama no memochou volume 1* karya Sugii Hikaru. (Skripsi). Universitas Brawijaya
- Sahara, R.M. & Darlina L. (2013). Konstruksi Pasif Bahasa Jepang (Kajian Gramatika Relasional). *Soshum jurnal sosial dan humaniora 3* (2), hlm. 136-150

- Sarjani, A. I. (2016). Penelitian Tentang Persyaratan Dan Kekhususan Kalimat Pasif Dalam Bahasa Jepang Dan Perbandingannya Dalam Bahasa Indonesia. *JAPANEDU 1* (2), hlm. 1-10
- Sidiq, U. & Chori, M.M. (2019). *Metode Penelitian Kualitatif Di Bidang Pendidikan*. CV Nata Karya : Ponorogo
- Steven. (2012). Analisis Kalimat Pasif Bahasa Jepang dalam Komik *Star Ocean Till The End Of Time* Karya Akira Kanda. *Jurnal*. Jakarta : Universitas Bina Nusantara
- Sudjianto & Dahidi A. (2017). *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Kesaint Blanc: Jakarta Pusat
- Sukma L.P.R. & Setiawan L.G.I.P.S. (2020). Kontrastivitas Diatesis Pasif Bahasa Indonesia dan Bahasa Jepang Dalam Dongeng Jepang Momotarō. *Kulturistik: Jurnal Bahasa dan Budaya*, 4 (2), 69-76. Doi: 10.22225/kulturistik.4.2.1903
- Sutedi, D. (2009). “Bagaimana Linguistik Menjawab : Masalah Kalimat Pasif Bagi Pembelajar Bahasa Jepang”. Dalam *International Seminar on Japanese Linguistic and Japanese Language Acquisition* (hlm.1-25)
- Sutedi, D. (2011). *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. UPI Press dan Humaniora Utama Press : Bandung
- Sutedi, D. (2011). *Dasar-Dasar Linguistik Bahasa Jepang (日本語学の基礎)*. Humaniora : Bandung
- Sutedi, D. (2015). *Kalimat Pasif Bahasa Jepang (Kajian Sintaksis, Semantis, Pragmatis, Dan Konstransif Serta Implikasinya Dalam Pengajaran) 日本語の受動文 (nihongo no jyudoubun)*. Humaniora : Bandung
- Tridayani, R. (2016) *Penggunaan Diatesis Pasif Pada Artikel Dalam Yomiuri Shinbun Versi Online*. (Thesis). Universitas Andalas, Padang

Internet

ARC Academia Nihongo Kyouiku. *Ukemi / Judoutai*. [Online]. Diakses dari: <https://yousei.arc-academy.net/manbow/index.php/term/detail/829>

(Diakses pada tanggal 05/09/21)

ARC Academia Nihongo Kyouiku. *Ukemibun no nintei / hi ga kakumeishi kara ga kakumeishi he no tenkan*. [Online]. Diakses dari: <https://yousei.arc-academy.net/manbow/index.php/term/detail/124> (Diakses pada tanggal

12/03/22)

Gacchan. *Anata ga chotto kanchigaishiteru, (judoubun (ukemi)) no honmono no gainen*. [Online]. Diakses dari:

<https://www.youtube.com/watch?v=SuuOpuVMfAU&t=10s> (Diakses pada tanggal 06/07/22)